

事業番号	16 06 03	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課
			実施期間	H30 ～	E-mail	kyogaku @ pref.nagano.lg.jp

1 現状と課題

・多様な特性等により学びづらさを抱える児童生徒が増えており、多様な学びや学びの場の保障が必要
 ・探究的な学びの一層の充実が求められる中、探究学習の様相は多様であるため、具体的な実践方法に戸惑いがみられる。
 ・変化の激しい時代において、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら、個別最適な学び、協働的な学びにより、教職生涯を通じて学び続けるといった、新たな教師の学びを実現していく必要性がある。

2 事業目的

・一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
 ・探究を中核とした学びを充実し、一人ひとりが自ら考え、他者と協働する学校づくりを支援する
 ・教職生涯を通じて学び続ける新たな教師の学びを実現する

3 事業目的を達成するための取組

- ①長野県教育をけん引する新たな学びの仕組みを構築
 ・探究を中核とした学びの充実、個別最適な学びの推進、多様な学びの場の創造を図るため、実践研究に取り組む学校に対するアドバイザー派遣や先進的な取組を行う県内外の学校への視察研修等を実施するとともに、成果を発信していくためのフォーラムを開催
- ②教職生涯を通じて学び続ける新たな教師の学びを実現する教職員研修の実施
 ・初任者から管理職まで必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた教職員研修を実施
 ・長野県の次代の教育を担う教員が資質・能力を高めるため、先進的な取組を行う学校への視察研修の支援や私学・民間等と連携した研修プログラムの開発を実施
- ③校園種を超えて学び合い質の高い幼児教育の実現を推進する信州幼児教育支援センターの運営
 ・校園種を超えて学び合い質の高い幼児教育の実現を推進するため、信州幼児教育支援センターによるフィールド研修を実施
 ・保育者に必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた研修を計画実施
 ・幼保小接続カリキュラム（理論編・実践編）に基づいた研修の実施
- ④子供たちの心身の健やかな成長に資する教育活動の推進
 ・道徳教育の一層の充実を図るため、有識者等による道徳教育推進委員会を設置し、豊かな心を育むフォーラム等の実施

4 成果指標

(推移の凡例 ↗ : 改善 ↘ : 悪化 → : 変化なし — : 数値なし)

No.	指標名	単位	R3年度		R4年度		R5年度		R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移				
①	学びの改革を普及するためのフォーラム参加者数	人	-	-		1,379	↗	800	達成	先進的な学びの改革に取り組む小中学校の成果を横展開するため、フォーラム参加者数を目標値として設定	
②	研修参加者の研修講座のふりかえり「講座のねらいを達成」	%	56.5	53.9	↘	53	↘	60.0	未達成	研修に参加した教職員の自己評価（「講座のねらいを達成した」とする者）が一定水準を上回るよう6割を目標として設定	
③	信州幼児教育支援センターによる各研修への参加者数	人	579	2,446	↗	2,027	↘	2,000	達成	令和4年度に拡充した研修を継続し、令和5年度も引き続き同規模の参加者を目標として設定	
④	豊かな心を育むフォーラムへの参加者数	人	75	132	↗	95	↘	100	未達成	豊かな心を育むフォーラムについて、令和3年度、4年度の実績を考慮し、令和5年度の目標を100名として設定	

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	幼保小合同研修会の実施率	%	2021 (R3)	46.6	2022 (R4)	46.6	2023 (R5)	45.3	2027 (R9)	56.6
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2021 (R3)	83.7	2022 (R4)	82.0	2023 (R5)	82.4	2027 (R9)	83.7
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2021 (R3)	76.5	2022 (R4)	78.1	2023 (R5)	77.4	2027 (R9)	76.5
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	★「授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間になっていた」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2021 (R3)	81.1	2022 (R4)	81.1	2023 (R5)	84.2	2027 (R9)	81.1

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R5年度	0	111,267	1,596	112,863	91,062	71,825	8.0
R4年度	0	99,224	0	99,224	86,261	46,979	8.0
R3年度	0	110,417	0	110,417	95,692	42,017	8.0

事業番号	16 06 03	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	<input type="checkbox"/> 当初要求 <input type="checkbox"/> 当初予算案 <input type="checkbox"/> 補正予算案 <input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費	部局	教育委員会事務局 課・室 学びの改革支援課

7 主な取組実績と成果

①長野県教育をけん引する新たな学びの仕組みを構築

・学びの改革パイオニア校構築支援事業により、これからの時代に必要とされる先進的・先端的な学びへの改革に取り組む実践校を「学びの改革パイオニア校」に指定し、長野県教育をけん引する新たな学びの仕組みの構築を支援することによって、探究を中核とした学びの充実、教育課題の解決、多様な学びの場の創造を図り、成果の普及に努めた。

教育委員会は学びの改革パイオニア校への支援として、改革アドバイザーの派遣や県外視察への支援を行った。学びの改革パイオニア校は、自校の取組を近隣の学校に広げるべく、各地区の教育事務所が主催する情報交換会で、取組について発信した。

1月の学びの改革フォーラムながのでは、学びの改革パイオニア校の代表が、全県に向けその成果を発表した。学びの改革フォーラム・ミニフォーラムを計5回開催し、有識者による講演や学校の取組発表を行った。学びの改革ミニフォーラムは、年間4回オンラインで実施した。各回の講師と参加者は以下のとおり。

4月21日第1回長野市産業戦略アドバイザー春日秀之氏(160名参加)

6月12日第1回上智大学教須正裕教授(434名参加)

9月13日第3回東北大学大学院堀田龍也教授(235名参加)

10月31日信州大学教授本田秀夫教授(346名参加)

学びの改革ミニフォーラムは県内の小中高等学校の教職員に非常に好評で、研修会の記録動画を校内研修に利用したいと視聴希望を申し込む学校は、のべ187校あった。また、事後アンケートでは、自校の学びの改革に生かすことのできる研修となったかの問いに対し、どの回も肯定的な回答は9割を超えた。



②教職生涯を通じて学び続ける新たな教師の学びを実現する教職員研修の実施

・初任者から管理職まで必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた研修を実施した。総合教育センターにおいて、343の講座を開講し、延べ16000人の受講があった。希望研修講座の充足率は75.5%であった。受講者アンケートでは、「研修で得られたものを自身の教育実践で生かしたい」と回答した割合が77%であった。また、大学と連携した講座や、受講者が講座での学びを手掛かりに、自校で校内研修を行う際に専門主事が運営のサポートを行う講座も需要が増えてきている。

③校園種を超えて学び合い質の高い幼児教育の実現を推進する信州幼児教育支援センターの運営

・園種・校種を超えて保育現場から学び合うフィールド研修を12回開催し、延べ664人が参加した。

R5年度は、R4年度同様、保育者がより参加しやすく効果的に研修できるように、オンライン研修（実践内容発表と演習）、実地研修（実践園校での保育・授業参観研修）、オンデマンド研修（研修をいつでもどこでも何度でも見返すことができる動画配信）を組み合わせ合わせた研修とした。また、往還型・探究型の形式とし、参加者が自分自身の課題をもち、その解決に向けて実践を重ねたり、討議し合ったりするようにした。提出物等の課題が増えたため研修の難易度は上がり、その分参加者数は前年度から減ったが、参加者にとってはより深まりのある研修となった。

・保育者のキャリアステージに応じた研修を5回開催し、延べ738人が参加した。

第1回 基礎形成期相当

「子どもとの主体性を尊重するということ」 講師 長野県立大学准教授 渡邊 望

第2回 伸長期相当

「子どもと共に創る保育」 講師 聖徳大学教授 河合 優子

第3回 充実期相当

「保育内容5領域の展開～保育の専門性に基づいて～」 講師 東洋大学教授 高山 静子

第4回 次世代育成期相当

「保育者の実践知の見える化と園内研修」 講師 東海大学講師 天野 美和子

第5回 管理職期相当

「園づくりで大切にしたいこと」 講師 東京福祉大学教授 岡野 雅子

保育者の要望に応じた研修とすることで、日ごろ感じている課題意識を解決することに加え、幼児教育の質の向上につながる新たな知見を得る機会となった。

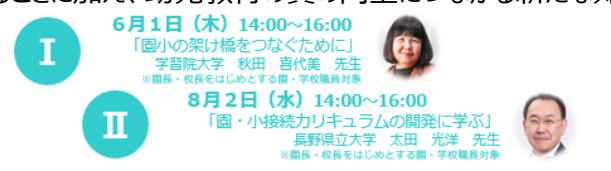
・園・小合同の研修会を2回開催し、延べ399人が参加した。

第1回 「園小の架け橋をつなぐために」

講師 学習院大学教授 秋田喜代美

第2回 「園・小接続カリキュラムの開発【理論編】【実践編】に学ぶ」

講師 長野県立大学教授 太田 光洋



園と小学校が「発達と学び」を視点に職員同士がつながることの重要性を確認した。そのためどのような機会をつくることのできるかを考えることで、具体的な見通しをもつことができた。

④ 子供たちの心身の健やかな成長に資する教育活動の推進

・教員研修や県民を対象とする教育フォーラム「豊かな心を育むフォーラム2023」を参集（長野県総合教育センター）及びオンラインによる実施で開催し、95名が参加した。第1部に長野県道徳教育推進委員らによるパネルディスカッション、第2部に講演会を行った。パネルディスカッションでは、パネリストの、地域の子供たちとのかかわりを生み出し続けるなおやマン氏、不登校の子供たちと共に歩み続ける西森氏の基調講演後、コーディネーターの中島先生を中心としてパネリストの皆さんに、「磁場としての家庭や地域とは？」についてそれぞれのお立場での経験や考えをディスカッションしていただいた。また、講演会では講師としてゆでたかの氏（吉本興業 長野県住みます 芸人）を招聘し、「芸人が教える学び」を演題にお話しいただいた。

・参加者からは「笑いや笑顔が大切なこと、子供たちがワクワクドキドキするようなこと、子供たちが次の日に学校に登校することが楽しみな学校づくり、子供の声をよく聞き、受け止め、共に伴走していきける教師や学校づくりを目指していきたい」「帰り道、一緒に参加した中高生の娘たちと、フォーラムを振り返りながら色々なことを話した。こうしたフォーラムと一緒に参加したのは初めてで、特に不登校の子ども達との関わりということについてどんな風に受け止めるのか不安もあったが、自分自身と重ねたり、先生や親の思いを聞いたり、それぞれの思いを大切にしたい」など、参加者からの肯定的な回答は100%であった。



8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	学びの改革を普及するためのフォーラム参加者数	R4年度推移		R5年度推移		達成状況	達成
令和2年度から令和4年度まで実施した学びの改革実践校応援事業が着実に実施されたことで、学びの改革に取り組む小・中学校が増加している。また、今日的な教育課題に対応した講師の招聘が、参加者数の増加につながっていると考えられる。							
指標②	研修参加者の研修講座のふりかえり「講座のねらいを達成」	R4年度推移	↘	R5年度推移	↘	達成状況	未達成
・参集型とオンライン型の研修が混在する年であり、オンライン研修参加者の振り返りに、研修内容の充実を望む意見が多くあった。また、研修を実践につなげるにはハードルが高いとの意見もあり、参加者のニーズとのずれが要因となったと考えられる。							
指標③	信州幼児教育支援センターによる各研修への参加者数	R4年度推移	↗	R5年度推移	↘	達成状況	達成
前年度より参加者数が減少した要因は、受講者に課題を課すなど、研修の難易度をあげたためだと考えられる。目標値は達成できたため、難易度と参加しやすさのバランスは適当だったと考える。							
指標④	豊かな心を育むフォーラムへの参加者数	R4年度推移	↗	R5年度推移	↘	達成状況	未達成
講演会講師の決定の遅れ、開催日の変更等により、前年度より参加者数が減少した（R1:91名、R2:中止、R3:74名、R4:132名、R5:95名）が、例年より一般参加者（保護者や地域の方、中高生）が増加している。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学びの改革パイオニア校構築支援事業により、学校のシステム改革や授業改革を目指す学校の拡大を図り、小・中学校の改革を支援することができた一方で、システム改革に取り組むには時間を要するといった課題もみられた。 ・大学と連携した講座や、受講者が講座での学びを手掛かりに、自校で校内研修を行う際に専門主事が運営のサポートを行う講座の需要が増えてきている。 ・幼児教育支援センター事業 R 5 事業において、目標値を達成できた。今後も現地参集による開催など、開催方法や内容をより参加者のニーズに合わせて事業を継続していく必要がある。 ・教員研修や県民を対象とする教育フォーラム「豊かな心を育むフォーラム2023」を位置付け、全体テーマ「豊かな心を育む～対話をてがかりとして～」について、講演会やパネルディスカッション等で構成したことは参加者のアンケート等を見てもおおむねよいと考える。一方で、教育関係者以外の一般参加への周知方法に課題がある。
(2) 事業改善の方策
<ul style="list-style-type: none"> ・学びの改革パイオニア校は、複数年（2年間）一つのテーマに取り組めるように学校を指定しているため、アドバイザーの派遣や視察費用の補助などを引き続き支援していくとともに、自校の学びの改革に取り組む学校との情報交換会の場を一層充実させることで、学校や地域ごとの課題に応じた学びの改革につなげていく。 ・参加者が研修講座での学びを手掛かりに校内研修を実施する際、専門主事が運営のサポートを行う支援を充実させる。また、多様な研修コンテンツをワンストップ化する「全国教員研修プラットフォーム」を本格導入し、研修の機会の拡充を図る。 ・幼児教育支援センターにおいて、R 5 年度に実施したキャリアに応じた研修や園・小合同研修等を継続していく。また、各園の研修計画の作成時に信州幼児教育支援センターの研修を選択できるように、フィールド研修の募集開始を1か月早める。加えて、参加者のニーズに合わせ、フィールド研修全10回の研修のうち7回を保育や授業における子どもの姿から直接学び合える参集研修の機会とする。 ・「豊かな心を育むフォーラム」を教育関係者だけでなく、保護者や地域の方々に多く参加いただけるよう、教育委員会を通じての周知だけでなく、長野県道徳教育推進委員会の方々の様々なチャンネルを活用し、様々な立場の人が参加できるよう働きかけていく。

事業番号	16 06 03	細事業一覧（令和5年度実施事業分）	□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検			
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
1	学びの改革パイオニア校構築支援事業	0 千円	0 千円	1,345 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	学びの改革パイオニア校普及促進事業	直接	先進的な学びの改革に取り組む小中学校の研究成果等を発信するフォーラムを開催する。 ミニフォーラム4回、フォーラムながの1回を開催	
2	多様な学びの保障研究事業	直接	不登校等の多様な児童生徒の学びの保障について実践研究を行う学校に対し、アドバイザー派遣や先進校視察の支援を実施する。 小中学校4校において研究	
3	個別最適な学び研究事業	直接	児童生徒自らが学習を調整、最適化する学びを実現するため、一人ひとりに合った教材を使用した最先端の自由進度学習等を研究する。 小中学校6校において研究	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
2	認知や発達の特性に応じた学びの充実実証研究事業	0 千円	0 千円	3,509 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	認知や発達の特性に応じた学びの充実実証研究事業	直接	認知や発達に特性があり、学びづらさを抱える児童生徒を含む全ての子どもたちの学びを充実するため、特性に応じた教育方法の在り方や個々の特性を把握するアセスメントの活用による学びの実証研究を実施する。 小中学校4校において研究	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
3	教職員研修事業費	19,094 千円	21,739 千円	39,319 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	教職員研修事業費	直接	教職員の資質能力を向上させるため、初任者研修等の法定研修やキャリアに応じた各種研修を実施する。 初任者、5年目、10年目、20年目以上の者への資質向上研修を実施	
2	フロンティアスピリッツ事業（自己啓発研修）	補助金	小・中・高等・特別支援学校の教職員が業務と関連する知識や技能を幅広く習得する取組を支援するため、旅費の一部を補助する。 小・中・高等・特別支援学校の教職員の研修支援8名	
3	特色ある私学・民間等と連携した「探究」研修プログラム開発運用事業	直接負担金	探究を中核とした学びの改革を推進するため、学びの改革を担う教員研修の充実や、私立学校・民間企業等と連携した教員養成研修プログラム開発を実施する。 検討会2回、小中学校2校での理論と実践、小中高のミドルリーダー育成（約30名）等を実施	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
4	総合教育センター研修費	13,948 千円	12,174 千円	15,079 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	総合教育センター研修費	直接	『個人と社会のウェルビーイングの実現』に向けて、教員の資質能力向上を図る研修、専門的な知識・技能を習得する研修及び、教育課題を解決する力を育成する研修を行う。 希望研修、校長・教頭向け研修等講座数343件	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
5	総合教育センター研究費	1,089 千円	1,251 千円	912 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	総合教育センター研究費	直接	本県教育の今日的課題やセンターの事業に関する喫緊の課題に対応するため、研究協力者及び研究協力校とともに、時代を先取りした研究調査を推進する。 調査研究事業6件を実施。	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
6	幼児教育振興事業費	4,346 千円	5,335 千円	5,601 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	信州幼児教育支援センターの運営	直接	幼稚園及び保育所等の園種を越えて幼児教育の質の向上を図るため、関係団体との連携、保育者研修の見直し等を実施する。 運営会議2回、専門部会6回実施	
2	保育者の資質能力の向上	直接 委託	質の高い幼児教育を実施するため、キャリアステージに応じた研修を実施。また、先進的な取組を行っている幼稚園、保育所及び認定こども園等でフィールド研修を委託する。（委託先：県内の幼児教育施設等） キャリアステージ研修5回、フィールド研修委託5件実施	
3	幼保小の学びの接続	直接	幼保小接続カリキュラム（理論編・実践編）に基づいた研修を実施する。 研修2回実施	
4	保護者・地域等の理解の促進（情報発信）	直接	保護者及び地域等へ理解を促進するため、情報誌による情報発信をする。 情報誌への掲載3回実施	

細事業 No.	細事業名	R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
7	道徳教育総合支援事業	3,183 千円	1,761 千円	2,975 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	道徳教育総合支援事業	直接	道徳教育の質的転換を一層図るため、学習指導要領を踏まえた多様な指導方法の開発や指導力向上のための教員研修等を推進する。 教育フォーラム1回、研究協議会2回開催	

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
8	地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備事業		0 千円	0 千円	3,085 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	地域文化クラブ活動体制整備事業	直接 委託	地域全体で中学生の多様な文化活動の機会を確保するため、運営組織や団体等の持続可能な運営に向けた体制整備や指導者の確保等を支援する。 4市において体制整備等の実証事業を実施		